

## 第一回安全で安心な県づくり推進会議記録（要旨）

日 時：平成28年3月23日（水）午後1時30分～午後3時5分

場 所：本庁2階 第一特別委員会室

出席者：出席者一覧のとおり

### 概要

- ・会長に吉岡正彦委員選出。副会長に宍戸文男氏、佐々木康文氏を指名。
- ・各委員の主な発言趣旨（自己紹介と意見交換）

#### 【熊田真一委員】

- ・被害者支援センターで民間の防犯活動を支援している。
- ・協賛金、寄付金で運営。ボランティアは40名。
- ・昨年支援した200件のうち7割は性被害の問題である。

#### 【熊田芳江委員】

- ・精神障害者の社会復帰の支援をしている。
- ・虐待などを受けて、ストレスによって大人になって精神疾患を起こっていることが多く、施設を利用せずに家で引きこもってしまう場合もある。
- ・障がい者とともに偏見のない地域を目指しており、具体的な活動内容としては、「食」で地域に貢献をしようとしている。
- ・地域の中の仕組みをつくり、お互いを支え合う関係を作っていきたい。

#### 【宍戸文男委員】

- ・原子力の安全は進んでいるが、がん検診の受診率は低い。がんが増えないように、がん検診（自助）のPRについて入れてもらえるとありがたい。
- ・がんが発生しないような環境問題についても提案したい。
- ・医療、介護などの福祉人材が少ない原因は、資格を持ってしまうと県外の条件の良いところに行ってしまう。魅力的な職場を作り、選んでもらえるように取り組んでいる。理学療法士の大学が福島市の街中にできる。
- ・AED を使える人がどれだけいるのか気になる。AED をいかに使えるように普及するかが大事。

#### 【田崎由子委員】

- ・消費者団体で活動している。震災後は自分たちの生活を見直す機会になった。
- ・団体としては震災後の体験記録集を作成し、それ以後4年間は食と放射能に関すること、風化に関するアンケート調査をしている。
- ・アンケートの調査を分析すると、県外の方は福島を今を知らず、震災直後のイメージが残っている。

一方で、福島県民は放射能について勉強し、ある程度判断力を身につけている。安全に対して自分で判断できる力を持つことが大事である。

- ・消費者の立場から意見を述べていきたい。

#### 【番場さち子委員】

- ・任意団体「ベテランママの会」を立ち上げ、坪倉正治先生と放射線教室という勉強会を100回以上しており、塾では教育アドバイザーをしている。
- ・東京に出ていき、福島に対する偏見により引きこもりになっている子どももいる。放射線に対する正しい知識を持たなければならない。
- ・ベテランママの会では、DV、性被害、引きこもり等、万屋的に相談を受けている。
- ・福島に対する偏見をなくすには、全国の教科書に放射線教育の記述を載せて欲しい。
- ・10の視点に教育が入っていない。復興には「人づくり」が必要であるので、教育を入れることを提案したい。
- ・南相馬市は3つに避難地域を区分してしまったため、住民の安全・安心に対する意識も変わってしまった。
- ・地域性の差を考慮して、地域ごとの内容があってもよいのかなと思う。

#### 【舟木容子委員】

- ・22年前に埼玉から昭和村に移住し、ごく一般のお母さんをしている。
- ・計画を見ても難しいと感じてしまう。
- ・昭和村では昔ながらの生活をしている。たとえば、大雪で3日間停電になったことがあるが、村の人は困らなかった。緊急時に強い人が住んでいる。
- ・人間がもともと持っていた本来の力を大切にしているところに惹かれて、昭和村に住んでいる。
- ・これから生きていく力を身につけていく上で、「自分の身体に入るもの、自分たちで作っていくことを知る機会をもっと持ってもらいたい。
- ・資料を見ていると、普段使わない知らない言葉が多い。

#### 【松本喜一委員】

- ・二本松市にある、福島介護士専門学校の教員をしている。また、社会福祉士の資格を持ち、その団体の事務局長をしている。
- ・高齢社会に対して不安がある。一人暮らし認知症の問題や、認知症になってしまうと負担が重くなり虐待されてしまうこともある。
- ・また、地域包括ケアシステムによって地域で介護を支える流れになっているが、一方で介護切りなどの利用しにくい流れも（介護保険の限界）ある。
- ・差別とか偏見により、権利が侵害されている。4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行される。
- ・認知症の人に対しては成年後見制度の利用を増やすべきであり、身寄りの無い人が差別に対して市町村に申し立てする機会を増やすべきである。

- ・昭和村などの地域のあり方を考えていくと、不安材料は消えていき、簡単な考え方で安全で安心な県づくりの対策ができるかもしれない。
- ・福祉医療関係の人材不足がある。人材の養成が必要。

#### 【渡辺豊委員】

- ・郡山市では、セーフコミュニティの活動をしている。
- ・定住施策を行っているが、放射線の不安から企業誘致がうまくいかず、(家族は一緒に来ないで) 単身赴任が多い。
- ・普段の取組は何となくやっている取組が多いので、セーフコミュニティの取組では、できる限りデータをとって、対策の結果を必ず数値化し、結果を測定し次の対策につなげる取り組みをしている。
- ・協議会では事務局が案を作るのではなく、課題に対してそれぞれの団体、個人で何ができるかを考え積極的に発言をしている(協働)。
- ・福島県のそれぞれの地域性の違いをどうやって理解した上で考えていけばよいか。郡山市でも、農村と都市部では地域性がかなり違う。
- ・現実の状況(数値)と不安(こころの感じ方)に違いがある。そこをどう整理したよいかわからない。

#### 【藁谷俊史委員】

- ・日本防災士会で防災の推進を行い、地域では防犯ボランティアを行っている。
- ・福島では、職員も住民も被災しており共助は自助と公助の組み合わせることが大事。
- ・防災士の数は増えてきているが、防災士の資格をとっても実際に活動している人は非常に少なく、また高齢の人も多い。一緒に活動できる若くて元気な人を募って、防災活動に貢献できる人を増やしていきたい。

#### 【吉岡正彦委員(会長)】

- ・県の計画は県民のみなさんがわからないと意味がないので、難しければ簡単にしましょう。
- ・少子高齢化、人口減少、財政逼迫、その中で貧富の格差が大きくなってきて、非常にリスクな社会になってきている。
- ・AEDを使える人数を計画の指標に入れてみてもいいのかもしれない。

今後のスケジュールについて(事務局より)

- ・次回の推進会議までに、基本計画の改定のスケジュールを示す。
- ・推進会議は4回開催予定で、今回は5、6月に開催したい。
- ・計画は来年度中に改訂を行いたい。